

Ⅰ 授業について(参観シート・ロイロノートより)

(参観シートより22名):平均点も出しています。( )は記載があった人数です。

- ・本時までの流れ
- ・子どもの言葉からのめあて・まとめの作成(3)
- ・板書の使い方(3)
- ・ペア活動のタイミング(2)
- ・環境管理(2)
- ・動作化(役割演技)(2) → ▲練習が必要
- ・普段からの取組(4)
- ・**学習訓練(9)**
- ・学びに対しての子どものスキル
- ・実態把握からの全員参加授業
- ・パワーポイントでの導入の工夫
- ・ノートの書き方
- ・授業時間の経過時間(主観的)
- ・発問の工夫(4)、指示の出し方
- ・子どもの発言の扱い、取り上げ方、広げ方(教師のコーディネート)
- ・学びを楽しむ姿(教師・子ども)(2)
- ・支持的風土作り(楽しい雰囲気)、ウォーミングアップのさせ方
- ・授業終末の言葉「え～もうまとめ早い!」(2)
- ・音読の指示(見るだけでなく指示による声掛け)(○:3▲:3)
- ▲「うんと」のキーワードの処理→注目できる仕掛けがもう一歩(2)
- ▲叙述に返す方法(3) → 黒板に残していく、サイドラインを引かせる、
- ▲指示棒→Im定規ではなく他の物がいいのでは・・・。

(ロイロノート)

学習規律の定着  
書くスピード 全員書いている  
自分の考えを自分なりに書こうとしていた  
漢字早読  
めあてもまとめも子どもの声で進んでいる  
雰囲気が明るい 笑顔 支持的風土  
～じゃないですか?の子供からの問いかけ  
みんなと頑張りたいたいことを引き出す手立て◎うまく引き出していた  
机間巡視での意図的指名



○自分の授業にいかしたい・取り入れていきたい

漢字速読→続けることが大事  
役割演技  
引き出し方  
机間巡視で子どもの意見を吸い取って意図的指名で意見をコーディネートしている  
子供が発した言葉をどのように活用するか

- ・パワーポイントの導入
- ・学習規律
- ・ノートの使い方(主発問のみ)
- ・役割演技(ペープサート)

→子供がにこにこしていた。  
・子供たちが集中していた  
・～ですよね?(子供たちの発言)



○自分の授業にいかしたい・取り入れていきたい

- ・パワーポイントの導入(前時の授業の振り返りでも使える)
- ・漢字スキルを読む
- ・めあてを何回も読む(だまっている時間をなくす)

- ・学びの姿勢ができています
- ・課題のある子が導入で登場しており、活躍する姿が良かった。
- ・全員参加していた。
- ・日ごろの学習習慣が徹底していることが伝わってきた。
- ・周りとの話し合いがスムーズにできていた。



○自分の授業にいかしたい・取り入れていきたい。  
・学習訓練の方法を詳しく知りたい。  
・「どの気持ちが一番だったでしょうか」という質問の「一番」という分りやすい比較する言葉があったことで、各自の意見と物語の状況を総合的に考えるようなゆさぶりがあった。

- ・漢字スキルの場面がよかった。
- ・学習規律ができていた。
- ・パワーポイントにやり方を説明していたのがよかった。→説明をしてあげるとやり方が分かっていない子・・・
- ・音読の方法がペアでできてよかった。
- ・授業の活用場面が多かったのがよかった。
- ・ペープサート 楽しんでた。→もっと役割演技の方法を考えると・・・
- ・きれいな字でまとめた。
- ・「まとめがはやい」→集中して授業を受けていた。
- ・言葉の言い換えをしていたところがよかった。



○自分の授業にいかしたい・取り入れていきたい  
・気持ちのバリエーション出してあげたい  
・学びの足跡の掲示  
・黒板の上に挿絵をはる  
・見通しを持たせる パワーポイント

- 子どもたちのつぶやきをもとに授業が進んでいた。
- 音読は基礎学力の向上のために効果的であった。
- 学習規律がしっかりしていた。 など
- 導入の前に、ダウト読みがとてもよかった。発表するときのルールや確認など、楽しく笑いがらやっていたのがすごくよかった。その後の音読読みに入りやすかった。
- つぶやきがつぶやきをよんで、子どもたちの声がつながっていた。言葉に出すのが苦手な子供たちが、その言葉聞いて、自分の考えに自信を持つことができていた。
- ICT活用、やること①、②、③というように書いて提示してあったので、分かりやすかった。
- 先生の指示と視覚的の指示が同時だったので、理解の速い子はできるけど、理解の遅い子についていけないかった。みんなで確認するつもりで読むのもよかった。
- めあてのまえに、「う～んと考えた」の「う～んとって何？」ってつぶやいた児童がいた。そのつぶやきをとりあげてもよかった。
- いろいろかんがえた→いろいろ（方法）を考えるのもいいかも

- 導入における見通し（段取り）を示されたのはよかった。ただ、支援が必要な児童には別の手立ても必要だったのでは。
- ペープサートを使った動作化があったのはよかった。感情移入がしやすいと思う。
- キーワードに線を引かれたり、チョークの色の工夫で子どもたちに意識化させていたのはよかった
- 板書が見やすく、整理されていて、文字もとてもきれい。
- ペア学習を入れるタイミングがとてもよかった。
- 子どもたちの言葉を大切に、つなげていこうとされていた。
- 発問や支持が短くて端的で、子どもたちにもわかりやすい。
- 学習環境づくり（前時までの学習や挿絵、レオレオニの本等）

○自分の授業にいかしたい・取り入れていきたい

- 子どものつぶやきを拾って繋げるスキルを磨く！
- 授業の初めに帯活動を取り入れ、基礎学力の向上を目指す！
- ICTを活用した視覚的指示
- つぶやきがつぶやきをよぶ、つぶやきのかけあい（つぶやきのシャワー）が収束していった

○自分の授業にいかしたい・取り入れていきたい

- 子どもへの発問・指示の仕方
- 動作化
- 学習規律と学習スキルの習得

## 2 指導・助言（義務教育課 橋本様、井手様より）

### ①子どもの思考のアウトプットの場面を意識して

・教師対子どもから子ども対子どもへ

「今の考えどういうこと？隣の人へ説明して」

### ②選ぶ活動には、選んだ理由を添えて

・「〇〇くんの考え」から「〇〇という考え」へ

・〇〇を選びました。そのわけは、・・・。

### ③まとめは自分の言葉で

・そのためには、全員が活動に参加する。

・まとめの前の「なりきりインタビュー」

ベースは、子どもたちの学びの土台をしっかりとつくること！

※誰一人取り残さない→一人一人の可能性を信じ、最大限力を引き出すために働きかける。

## 3 今後の方向性・次回取組（研究の積み重ね）

- ・板書の工夫&子どもの声で授業を計画する
- ・国語科では、叙述に返す方法を常に考える
- ・発問・指示を区別し、明確にする
- ・単元全体で授業を構成する（本時だけの授業にしない）
- ・音読の仕方（基礎学力定着に向けて）
- ・学習訓練（授業までの取組）

## 4 感想（質問に対する自分の考え）

### ①音読の指示

特別支援の視点から、たまに電子黒板やホワイトボード、イラストの絵で指示を出します。本時では、様々な要因からあのようにしました。思ったより指示が不明確で分かっていない児童が多々いたので、分かりやすい提示や声掛けが必要だったと反省です。指示の出し方については日々検討しています。ここで考えたいのが、指示を「声だけ」でするようになるとどうなるでしょうか。おそらく、子どもたちは「声」でしか動けないと思います。頭はあまり働いていません。「自分で情報を選んで、自分で判断して行動できるようになってほしい！」と日々の授業から訓練したいと取り組んでいます。まだまだですが、これは、前任校の特別支援の研修で松本先生という方から教えて頂いたことで、大変参考にしています。資料あります、ちなみにボイスメモもありますので気になる方は・・・。

### ②役割演技の子ども指名の基準

私は、つぶやきを大切にしたいと思っています。そうすると取り残されてしまう児童が必ず出ます。そうならないように全員参加を考えています。意欲的な子は後からでも参加できるので、役割演技であまり発言しない子を中心に当てました。